

栗山町第6次総合計画 計画事業評価シート

政策分野	005	都市基盤	政策項目	026	街なみ・景観	施策	071	市街地形成の推進	担当課	建設水道課
------	-----	------	------	-----	--------	----	-----	----------	-----	-------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
152	新町地区の再開発整備要望に取り組みます。	継続	平成27年度	平成34年度

	指標項目	基準値	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		指標設定の考え方
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
活動指標	街路整備事業実施に伴う陳情・要望（単位：回）	0	3	6	10	7	0	8	0	0	
	新町通り再生プロジェクトの開催（単位：回）	0	8	8	0	0	0	5	0	0	
	新町通りコア会議の開催（単位：回）	0	0	0	18	18	0	5	0	0	町・期成会・コンサルタントで協議する会議を月2回で開催予定
	新町通ビジョン実現化委員会の開催（専門部会含）	0	0	0	0	0	10	14	0	0	
成果指標	新町通事業計画関連委託業務発注（単位：件）	0	2	2	1	1	0	2	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【担当課評価】

項目	判断基準
必要性	1. 目標設定が町民ニーズ等に合致している。課題解決のために不可欠な事業である。
	駅前通り商店街と一体となった整備により魅力ある住環境整備の観点から町民ニーズに合致し不可欠な事業である。
妥当性	1. 公共性・公益性が高いことから、行政が主体的に実施すべき事業である。
	期成会は存在するが、メインの街路事業は北海道主体であるため行政が主体的に実施すべきと考える。
有効性	1. 目的を達成するための手段として有効であり、最適な実施方法である。
	北海道が街路事業に着手するよう陳情・要望活動を継続していく為に最適な方法と考える。
効率性	1. 事業費コスト及び人件費コストに見合った効果が期待でき、費用対効果が高い。
	専門的知識のあるコンサルに委託することにより、より精度の高い構想計画を作成できるため費用対効果は高いと思われる。
公平性	1. 受益者負担が適正であり、特定の個人や団体に偏っていない。
	新町通りを整備することは、駅前通り商店街と一体となった魅力ある住環境整備することになり栗山町の玄関口という意味からも偏ったものではない。

項目	事業把握
前年度評価に対する改善内容	都市再生整備計画事業及び長年の懸案であった新町通街路拡幅についても平成30年度より着手することになった。
課題・問題点	新町通街路拡幅に伴い、道路沿線の空洞化を懸念する
改善策	新町通りの街路整備をすることで、新町通沿線が空洞化しないようまた栗山町の玄関口にふさわしい街並みを形成するため「新町通将来ビジョン」を策定し、それを実現するため新町通り将来ビジョン実現化委員会も立ち上げた。

【総合評価】

区分	評価内容・指示事項
1次評価	1. 計画通りに進める 平成30年度より事業着手できることとなったことから、年次毎の事業計画に基づき進めること。また、将来ビジョン実現化委員会が出された意見等については、調査設計等に十分に反映して進めること。
	※事後評価につき対象外
外部評価	※事後評価につき対象外
	※事後評価につき対象外
最終評価	※事後評価につき対象外

栗山町第6次総合計画 計画事業評価シート

政策分野	005	都市基盤	政策項目	026	街なみ・景観	施策	071	市街地形成の推進	担当課	建設水道課
------	-----	------	------	-----	--------	----	-----	----------	-----	-------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
153	馬追橋の早期架換え要望と、錦地区の街並みづくりを検討します。	継続	平成27年度	平成34年度

	指標項目	基準値	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		指標設定の考え方
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
活動指標	馬追橋架換え事業実施に伴う要望（単位：回）	1	1	1	1	1	1	1	1	0	基準値：H25
	幹線道路の整備（単位：m）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	基準値：未実施
	遊歩道の整備（単位：m）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	基準値：未実施
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
成果指標	馬追橋架換え事業の実施（単位：橋）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	基準値：未実施 ※道実施事業
	事業進捗率（単位：%）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	基準値：未実施 ※町単独事業の進捗
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【担当課評価】

項目	判断基準
必要性	1. 目標設定が町民ニーズ等に合致している。課題解決のために不可欠な事業である。 馬追橋の老朽化及び交通安全対策に係る架替、また、これと合せ幹線道路と遊歩道等を整備するものであり、本町の市街地形成等の観点から必要不可欠な事業である。
妥当性	1. 公共性・公益性が高いことから、行政が主体的に実施すべき事業である。 馬追橋架替や幹線町道をはじめとした周辺環境整備であり、地域住民の参画も得ながら行政が主体的に推進すべきものである。
有効性	1. 目的を達成するための手段として有効であり、最適な実施方法である。 現在は国や道への陳情・要望活動が中心であるが、町事業と一体的に推進していく必要があるため、当面は早期事業化に向けた活動を中心に展開していく。
効率性	1. 事業費コスト及び人件費コストに見合った効果が期待でき、費用対効果が高い。 現時点では直接的な事業費は発生しておらず、人件費についても特に改善を要するものはない。
公平性	1. 受益者負担が適正であり、特定の個人や団体に偏っていない。 本事業は、本町の玄関口にふさわしい魅力ある街なみづくりと地域活性化を目的としたものであり、公平性は担保されている。

項目	事業把握
前年度評価に対する改善内容	—
課題・問題点	—
改善策	—

【総合評価】

区分	評価内容・指示事項
1次評価	1. 計画通りに進める 錦地区の環境整備を推進するため、馬追橋の架け替えにあわせて幹線道路・遊歩道の整備や、歴史的建造物を活かした錦地区の魅力的な街並みづくりの検討など、計画通り進めること。
	※事後評価につき対象外
2次評価	※事後評価につき対象外
外部評価	※事後評価につき対象外
最終評価	※事後評価につき対象外

栗山町第6次総合計画 計画事業評価シート

政策分野	005	都市基盤	政策項目	026	街なみ・景観	施策	071	市街地形成の推進	担当課	建設水道課
------	-----	------	------	-----	--------	----	-----	----------	-----	-------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
154	南部公民館の利便向上に向けた、敷地内の整備を行います。	継続	平成27年度	平成28年度

	指標項目	基準値	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		指標設定の考え方
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
活動指標	道路及び出入口整備 (単位:箇所)	0	0	0	1	0	0	0	0	0	基準値: 未実施
	芝生整備 (単位: m ²)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	基準値: 未実施
	駐車場整備 (単位: m ²)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	基準値: 未実施
	調査設計発注 (単位: 件)	0	1	0	0	0	0	0	0	0	基準値: 未実施
成果指標	事業進捗率 (単位: %)	0	3	0	60	0	0	0	0	0	基準値: 未実施
	地域との打合せ (単位: 回)	0	2	0	1	0	0	0	0	0	基準値: 未実施
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【担当課評価】

項目	判断基準
必要性	
妥当性	
有効性	
効率性	
公平性	

項目	事業把握
前年度評価に対する改善内容	
課題・問題点	
改善策	

【総合評価】

区分	評価内容・指示事項
1次評価	※評価対象外
2次評価	※事後評価につき対象外
外部評価	※事後評価につき対象外
最終評価	※事後評価につき対象外

栗山町第6次総合計画 計画事業評価シート

政策分野	005	都市基盤	政策項目	026	街なみ・景観	施策	071	市街地形成の推進	担当課	建設水道課
------	-----	------	------	-----	--------	----	-----	----------	-----	-------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
155	継立中学校跡地の活用を含めた南部地域振興策を検討します。	継続	平成27年度	平成34年度

	指標項目	基準値	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		指標設定の考え方
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
活動指標	地域住民との懇談会の開催（単位：回）	2	1	0	0	0	0	0	0	0	基準値：H25 ※方針策定にあたっての意向把握等
	庁内検討会議の開催（単位：回）	2	1	0	0	0	0	0	0	0	基準値：H25 ※方針策定にあたっての協議等
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
成果指標		0	0	0	0	0	0	0	0	0	※今後、具体的な方針決定に基づき設定
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【担当課評価】

項目	判断基準
必要性	1. 目標設定が町民ニーズ等に合致している。課題解決のために不可欠な事業である。 南部地域の振興・発展を推進するうえで、街並みづくりや基盤整備の実施は必須であり、必要不可欠な事業であると判断する。
妥当性	1. 公共性・公益性が高いことから、行政が主体的に実施すべき事業である。 地域振興に伴うまちづくり構想の方針策定であることから、行政が主体的に推進していくものである。
有効性	1. 目的を達成するための手段として有効であり、最適な実施方法である。 地域の住民意向及び庁内での検討を踏まえたうえで、今後の方針を策定することとしている。
効率性	1. 事業費コスト及び人件費コストに見合った効果が期待でき、費用対効果が高い。 今後の方針を策定していくうえでの必要経費を予定しており、最小限の人員と予算で実施していくこととしている。
公平性	1. 受益者負担が適正であり、特定の個人や団体に偏っていない。 地域全体の利益及び町全体の活性化に繋がる事業であることから、公平性が図られていると判断する。

項目	事業把握
前年度評価に対する改善内容	(前年度評価なし)
課題・問題点	南部地域振興策について、地域との協議を進める
改善策	-

【総合評価】

区分	評価内容・指示事項
1次評価	1. 計画通りに進める 南部地域振興対策について、関係課及び南部地域との協議を計画通り進めること。また、道道夕張長沼線未開通区間の早期開通及び町道南学田線の道道昇格・延伸（由仁町との広域道路網の整備）について、道への要望活動を引き続き展開すること。
	※事後評価につき対象外
外部評価	※事後評価につき対象外
	※事後評価につき対象外
最終評価	※事後評価につき対象外

栗山町第6次総合計画 計画事業評価シート

政策分野	005	都市基盤	政策項目	026	街なみ・景観	施策	071	市街地形成の推進	担当課	建設水道課
------	-----	------	------	-----	--------	----	-----	----------	-----	-------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
156	農村環境改善センターの利便性向上に向けた周辺整備を行います。	継続	平成27年度	平成27年度

	指標項目	基準値	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		指標設定の考え方
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
活動指標	駐車場整備 (単位: m)	0	2,000	2,025	0	0	0	0	0	0	基準値: 未実施
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
成果指標	事業進捗率 (単位: %)	0	100	100	0	0	0	0	0	0	基準値: 未実施
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【担当課評価】

項目	判断基準
必要性	
妥当性	
有効性	
効率性	
公平性	

項目	事業把握
前年度評価に対する改善内容	
課題・問題点	
改善策	

【総合評価】

区分	評価内容・指示事項
1次評価	※評価対象外
2次評価	※事後評価につき対象外
外部評価	※事後評価につき対象外
最終評価	※事後評価につき対象外

栗山町第6次総合計画 計画事業評価シート

政策分野	005	都市基盤	政策項目	026	街なみ・景観	施策	071	市街地形成の推進	担当課	建設水道課
------	-----	------	------	-----	--------	----	-----	----------	-----	-------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
157	国道234号線の整備要望と、角田地域振興策を検討します。	継続	平成27年度	平成34年度

	指標項目	基準値	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		指標設定の考え方
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
活動指標	工業団地の造成（単位：㎡）	0	0	0	36,500	34,813	0	0	0	0	基準値：未実施
	幹線道路の整備（単位：m）	0	0	0	0	0	310	310	0	0	基準値：未実施 ※幹線町道
	幹線道路の整備（単位：m）	0	0	0	0	0	70	70	0	0	基準値：未実施 ※枝線町道
	造成調査設計委託発注（単位：件）	0	1	1	0	0	0	0	0	0	
	町道調査設計委託発注（単位：件）	0	1	1	0	0	0	0	0	0	
成果指標	事業進捗率（単位：%）	0	18	15	61	40	100	100	0	0	基準値：未実施
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【担当課評価】

項目	判断基準
必要性	1. 目標設定が町民ニーズ等に合致している。課題解決のために不可欠な事業である。
	第4工業団地の造成及び町道の整備を行い、企業誘致の推進と角田地域との一体感ある街並みの形成を図るため必要
妥当性	1. 公共性・公益性が高いことから、行政が主体的に実施すべき事業である。
	工業団地の造成及び町道整備のため町での実施が最適
有効性	1. 目的を達成するための手段として有効であり、最適な実施方法である。
	単独事業と社会資本整備総合交付金事業での実施
効率性	1. 事業費コスト及び人件費コストに見合った効果が期待でき、費用対効果が高い。
	国道工事で発生する残土を盛土に利用しコスト削減を図る
公平性	1. 受益者負担が適正であり、特定の個人や団体に偏っていない。
	工業団地の造成及び町道整備のため公平性に欠けてはいない

項目	事業把握
前年度評価に対する改善内容	前年度評価なし
課題・問題点	角田地域振興策として、今後も国道のバイパス整備要望を続けていく
改善策	-

【総合評価】

区分	評価内容・指示事項
1次評価	1. 計画通りに進める 国道234号の拡幅及び角田地区におけるバイパス化の整備要望について、計画通り進めること。
	※事後評価につき対象外
2次評価	※事後評価につき対象外
	※事後評価につき対象外
外部評価	※事後評価につき対象外
	※事後評価につき対象外
最終評価	※事後評価につき対象外

栗山町第6次総合計画 計画事業評価シート

政策分野	005	都市基盤	政策項目	026	街なみ・景観	施策	071	市街地形成の推進	担当課	建設水道課
------	-----	------	------	-----	--------	----	-----	----------	-----	-------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
158	栗山駅南側の機能性を高める道路・駐車場整備を行います。	継続	平成27年度	平成34年度

	指標項目	基準値	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		指標設定の考え方
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
活動指標	周辺用地の先行取得 (単位: m ²)	6,348	6,348	0	0	0	0	0	0	0	基準値: 未実施
	栗山駅南側の周辺整備 (単位: m)	0	0	0	0	0	100	0	0	0	基準値: 未実施 ※道路整備
	栗山駅南側の周辺整備 (単位: m ²)	0	0	0	0	0	1,200	0	0	0	基準値: 未実施 ※駐車場整備
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
成果指標	事業進捗率 (単位: %)	0	47	0	0	0	100	0	0	0	基準値: 未実施
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【担当課評価】

項目	判断基準
必要性	1. 目標設定が町民ニーズ等に合致している。課題解決のために不可欠な事業である。 JR栗山駅南側の機能性を高めるため、道路・公共駐車場を整備するもので、本町の市街地基盤形成を図る観点から必要不可欠な事業である。
妥当性	1. 公共性・公益性が高いことから、行政が主体的に実施すべき事業である。 道路・公共駐車場の整備を行うものであり、行政が主体的に推進すべきものである。
有効性	1. 目的を達成するための手段として有効であり、最適な実施方法である。 本年度は整備に必要となる民有地を先行取得したものであり、次年度より計画的に整備事業を展開していく。
効率性	1. 事業費コスト及び人件費コストに見合った効果が期待でき、費用対効果が高い。 先行取得は土地開発基金により実施したが、次年度以降は、国や道の補助制度等も模索しながら事業推進を図っていく。
公平性	1. 受益者負担が適正であり、特定の個人や団体に偏っていない。 本事業は、市街地基盤形成に係るJR栗山駅南側の周辺整備であり、公平性は担保されている。

項目	事業把握
前年度評価に対する改善内容	(前年度評価なし)
課題・問題点	-
改善策	-

【総合評価】

区分	評価内容・指示事項
1次評価	4. 改善を検討(その他) 当該事業は、都市再生整備計画事業の基幹事業の一事業であり、今後は「No.152新町地区の再開発整備要望に取り組みます。」に統合し取り進めること
	※事後評価につき対象外
外部評価	※事後評価につき対象外
	※事後評価につき対象外
最終評価	※事後評価につき対象外

栗山町第6次総合計画 計画事業評価シート

政策分野	005	都市基盤	政策項目	026	街なみ・景観	施策	071	市街地形成の推進	担当課	経営企画課
------	-----	------	------	-----	--------	----	-----	----------	-----	-------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
159	まちの将来像を見すえた栗山市街地の整備を検討します。	継続	平成27年度	平成34年度

	指標項目	基準値	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		指標設定の考え方
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
活動指標	広域道路網整備に向けた道要望の実施（単位：回）	0	0	0	1	1	1	1	1	0	基準値：実績なし
	大通り街路整備の検討（単位：回）	0	0	0	0	0	1	0	1	0	基準値：実績なし ※庁内会議の開催
	字名改正、5丁目構想の検討（単位：回）	0	1	0	1	0	1	0	1	0	基準値：実績なし ※庁内会議の開催
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
成果指標		0	0	0	0	0	0	0	0	0	後期計画において設定
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【担当課評価】

項目	判断基準
必要性	2. 目標設定が町民ニーズ等に概ね合致している。課題解決のために必要な事業である。 道路・街路整備については都市計画マスタープランに基づくものであり、町民ニーズ等にも合致している。字名改正及び5丁目構想については、将来の人口動態を見据えるとともに、町民ニーズ等の把握を行いながら進める必要がある。
妥当性	1. 公共性・公益性が高いことから、行政が主体的に実施すべき事業である。 都市計画事業であるため行政が実施すべき。
有効性	1. 目的を達成するための手段として有効であり、最適な実施方法である。 現状は検討段階であるが、将来的に必要な基盤整備である。
効率性	1. 事業費コスト及び人件費コストに見合った効果が期待でき、費用対効果が高い。 現状は検討段階であるため、直接的な事業費は発生しておらず、人件費についても特に改善を要するものはない。
公平性	1. 受益者負担が適正であり、特定の個人や団体に偏っていない。 現状では検討段階であるため、受益者負担の判断が困難であるが、道路・街路整備については不特定多数が利用するものである。

項目	事業把握
前年度評価に対する改善内容	広域道路網整備については、平成28年度より道要望（道道昇格）を実施。字名改正及び5丁目構想については、現時点で具体的な検討に至っていない。
課題・問題点	広域道路網整備は要望開始直後のため、実現までには相当な期間が必要である。字名改正及び5丁目構想については、実施構想区域に農地が含まれているが、将来の人口動態を見据えて進めることが重要であり、具体的な活用策が定まっていない。また、実施には最も重要な住民合意が必要であり、さらに、実施の際の各種変更手続に係る負担などの理解を得る必要がある。
改善策	広域道路網については、道との協議等を通じ継続して要望を行う。字名改正及び5丁目構想については、事例調査を行うとともに、改めてその必要性や実施区域の考え方等について検討を行う。

【総合評価】

区分	評価内容・指示事項
1次評価	1. 計画通りに進める 広域道路網整備に向けた要望を引き続き実施すること。大通り街路整備や5丁目構想による字名改正については、将来的な人口動態を見据え、かつ、既存市街地の状況等の変化も踏まえ、後期実施計画に向けての構想を整理すること。
	※事後評価につき対象外
2次評価	※事後評価につき対象外
	※事後評価につき対象外
外部評価	※事後評価につき対象外
最終評価	※事後評価につき対象外

栗山町第6次総合計画 計画事業評価シート

政策分野	005	都市基盤	政策項目	026	街なみ・景観	施策	072	景観づくりの推進	担当課	建設水道課
------	-----	------	------	-----	--------	----	-----	----------	-----	-------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
160	景観資源の保全・活用を図ります。	継続	平成27年度	平成34年度

	指標項目	基準値	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		指標設定の考え方
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
活動指標	景観審議会の開催（単位：回）	2	2	2	2	2	2	2	2	0	基準値：H25
	景観保全啓発活動の実施（単位：回）	4	2	2	2	1	2	1	2	0	基準値：H25
	景観フォトコンテストの開催（単位：回）	1	1	1	1	1	1	1	0	0	基準値：未実施
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
成果指標	景観審議会への参加（単位：人）	20	20	17	20	19	20	19	0	0	基準値：H25
	景観フォトコンテストへの参加（単位：枚）	60	60	59	100	106	100	145	0	0	基準値：未実施
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【担当課評価】

項目	判断基準
必要性	2. 目標設定が町民ニーズ等に概ね合致している。課題解決のために必要な事業である。 前回のフォトコンテストの実施により栗山町の景観の啓蒙につながったため今後も効果が期待できる。
妥当性	1. 公共性・公益性が高いことから、行政が主体的に実施すべき事業である。 条例や計画に基づくため行政が実施する。
有効性	2. 目的を達成するためには、別の手段も考えられるが、現段階では最善の方法である。 景観審議会は引き続き必要であるが、フォトコンテストに変わる景観事業があれば検討していく。 届出制度は有効ではあるが未だ認知度が低く感じる。
効率性	1. 事業費コスト及び人件費コストに見合った効果が期待でき、費用対効果が高い。 フォトコンテスト事業は前回初めてだったため非効率な部分もあったが、今回は前回の反省点を踏まえて効率的に行う。
公平性	1. 受益者負担が適正であり、特定の個人や団体に偏っていない。 偏りはなく公平である。

項目	事業把握
前年度評価に対する改善内容	届出制度の周知徹底。
課題・問題点	届出制度の認知度が低く、無届工事が見受けられる。
改善策	足場がかかっている住宅に対して届出制度の案内をポスティングしていく。

【総合評価】

区分	評価内容・指示事項
1次評価	1. 計画通りに進める 景観資源の保全・活用を図るため制度の周知徹底やフォトコンテストなどの景観事業を推進するなど、計画通り進めること。なお、景観形成基準違反防止のため、基準の周知及び塗装業者等への指導徹底を図ること。
	※事後評価につき対象外
2次評価	※事後評価につき対象外
外部評価	※事後評価につき対象外
最終評価	※事後評価につき対象外

栗山町第6次総合計画 計画事業評価シート

政策分野	005	都市基盤	政策項目	026	街なみ・景観	施策	073	公園・緑地の整備	担当課	建設水道課
------	-----	------	------	-----	--------	----	-----	----------	-----	-------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
161	老朽化した公園施設の修繕・更新を行います。	継続	平成27年度	平成34年度

	指標項目	基準値	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		指標設定の考え方
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
活動指標	公園施設の改築・更新（単位：箇所）	1	21	5	16	14	11	4	1	0	基準値：H25
	公園施設の修繕（単位：箇所）	0	7	0	7	0	7	0	0	0	基準値：未実施
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
成果指標	改築・更新進捗率（単位：%）	78	27	6	47	24	62	28	63	0	基準値：H25
	修繕・更新進捗率（単位：%）	80	9	0	18	0	26	0	26	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【担当課評価】

項目	判断基準
必要性	1. 目標設定が町民ニーズ等に合致している。課題解決のために不可欠な事業である。 老朽化した公園施設を安全に利用できるよう必要である。
妥当性	1. 公共性・公益性が高いことから、行政が主体的に実施すべき事業である。 都市公園のため、町での実施が妥当である
有効性	1. 目的を達成するための手段として有効であり、最適な実施方法である。 指定管理者、町内会等との打合せをし事業を実施する
効率性	1. 事業費コスト及び人件費コストに見合った効果が期待でき、費用対効果が高い。 事業内容を精査し、社会資本整備総合交付金事業で実施する
公平性	1. 受益者負担が適正であり、特定の個人や団体に偏っていない。 都市公園施設の為公平性は欠けていない

項目	事業把握
前年度評価に対する改善内容	－
課題・問題点	社会資本整備総合交付金事業の、要望額と交付額の差が大きく、計画の見直しが必要となる
改善策	－

【総合評価】

区分	評価内容・指示事項
1次評価	1. 計画通りに進める 安全・安心で魅力定な公園づくりを推進するため、公園施設の計画的な修繕・更新を進めること。
	※事後評価につき対象外
2次評価	※事後評価につき対象外
	※事後評価につき対象外
外部評価	※事後評価につき対象外
最終評価	※事後評価につき対象外

栗山町第6次総合計画 計画事業評価シート

政策分野	005	都市基盤	政策項目	026	街なみ・景観	施策	073	公園・緑地の整備	担当課	建設水道課
------	-----	------	------	-----	--------	----	-----	----------	-----	-------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
162	御大師山周辺（栗山公園等）の計画的な改修・整備を進めます。	継続	平成27年度	平成34年度

	指標項目	基準値	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		指標設定の考え方
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
活動指標	散策路の修繕（単位：箇所）	0	0	0	2	2	2	2	0	0	基準値：未実施
	順路看板の設置（単位：箇所）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	基準値：未実施
	展望デッキの設置（単位：基）	0	0	0	0	0	0	0	1	0	基準値：未実施
	眺望デッキ、休憩所の設置（単位：基）	0	0	0	0	0	1	0	0	0	基準値：未実施
	御大師周辺総合案内看板の設置（単位：基）	0	0	0	0	0	0	0	1	0	基準値：未実施
成果指標	栗山公園利用者（単位：人）	2,747	0	30,010	0	33,500	0	41,000	0	0	基準値：H25
	自然教育施設利用者（単位：人）	10,097	0	0	0	0	0	0	0	0	基準値：H25
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【担当課評価】

項目	判断基準
必要性	1. 目標設定が町民ニーズ等に合致している。課題解決のために不可欠な事業である。 御大師山周辺の魅力及び利便性、安全性の向上を図る
妥当性	1. 公共性・公益性が高いことから、行政が主体的に実施すべき事業である。 御大師山周辺の魅力及び利便性・安全性の向上ができ、町での実施が妥当である
有効性	1. 目的を達成するための手段として有効であり、最適な実施方法である。 計画的な環境整備により、魅力及び利便性、安全性の向上が図れる
効率性	1. 事業費コスト及び人件費コストに見合った効果が期待でき、費用対効果が高い。 社会資本整備総合交付金事業を活用し
公平性	1. 受益者負担が適正であり、特定の個人や団体に偏っていない。 御大師山周辺の魅力及び利便性、安全性の向上を図るため公平性は欠けていない

項目	事業把握
前年度評価に対する改善内容	—
課題・問題点	ファールルの森跡地を含めた整備が必要。
改善策	御大師山周辺環境整備事業連携会議を見直し、ふれあいプラザ・ファールルの森・ハサンベツ地区を含めた御大師山周辺整備計画を策定し進める。

【総合評価】

区分	評価内容・指示事項
1次評価	1. 計画通りに進める 昨年組織した御大師山周辺環境整備事業関係団体連携会議によりまとめられた「御大師山環境教育ツーリズム構想」に基づき、散策路や展望台などの施設等の改修を計画通り進めること。
	※事後評価につき対象外
外部評価	※事後評価につき対象外
	※事後評価につき対象外
最終評価	※事後評価につき対象外

栗山町第6次総合計画 計画事業評価シート

政策分野	005	都市基盤	政策項目	026	街なみ・景観	施策	073	公園・緑地の整備	担当課	建設水道課
------	-----	------	------	-----	--------	----	-----	----------	-----	-------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
163	御大師山周辺ガイドブックの作成と施設の利活用を促進します。	継続	平成27年度	平成34年度

	指標項目	基準値	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		指標設定の考え方	
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績		
活動指標	周辺ガイドブックの作成（単位：回）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	基準値：未実施	
	関係団体連絡会議開催（単位：回）	0	1	1	2	3	0	0	0	0		
		0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		0	0	0	0	0	0	0	0	0		
成果指標	栗山公園利用者（単位：人）	2,747	0	30,010	0	33,500	0	41,000	0	0	基準値：H25	
	自然教育施設利用者（単位：人）	10,097	0	0	0	0	0	0	0	0		基準値：H25
		0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		0	0	0	0	0	0	0	0	0		

【担当課評価】

項目	判断基準
必要性	1. 目標設定が町民ニーズ等に合致している。課題解決のために不可欠な事業である。 御大師山の周辺環境、関連施設情報を効果的に発信することにより、町内外の利用促進及び利用環境の向上を図る。
妥当性	1. 公共性・公益性が高いことから、行政が主体的に実施すべき事業である。 御大師山周辺ガイドブックを作成し、散策路・周辺施設の利活用の促進が図れるため妥当である
有効性	1. 目的を達成するための手段として有効であり、最適な実施方法である。 民間団体や各課連携し事業を進める
効率性	1. 事業費コスト及び人件費コストに見合った効果が期待でき、費用対効果が高い。 利用促進及び利用環境の向上が図れる
公平性	1. 受益者負担が適正であり、特定の個人や団体に偏っていない。 町民及び町外来訪者の御大師山散策の利便性向上が図られる

項目	事業把握
前年度評価に対する改善内容	—
課題・問題点	ファールルの森跡地利用の計画と合わせて作成する。
改善策	—

【総合評価】

区分	評価内容・指示事項
1次評価	1. 計画通りに進める 昨年組織した御大師山周辺環境整備事業関係団体連携会議によりまとめられた「御大師山環境教育ツーリズム構想」に基づき、散策路や展望台などの施設等の改修にあわせ、ガイドブック等の作成を進めること。
	※事後評価につき対象外
2次評価	※事後評価につき対象外
	※事後評価につき対象外
外部評価	※事後評価につき対象外
最終評価	※事後評価につき対象外